

表 付着生物研究会および日本付着生物学会で開催された研究集会およびシンポジウムの発表題目

年	論文・シンポ・集会	発表題目	発表者	掲載	日付・場所	
1972		「海産付着動物に関する研究の現状と問題点に関するシンポジウム」			6/17 東京大学海洋研究所(中野)	
	1	発電所排水路における被害と対策	石川雄介			
	2	夏季養殖場における被害と対策	荒川好満			
	3	付着生物とその防除に関する研究史概略	馬渡静夫			
	4	清水港における動物相	小坂昌也			
	5	若狭湾沿岸のフジツボ類について	安田徹			
	6	浮遊幼生について	平野禮次郎			
7	群集生態について	梶原武				
1973		「海産付着生物の生態と被害に関するシンポジウム」			6/7-8 東京大学海洋研究所(中野)	
	8	付着生物研究の現状	馬渡静夫			
	9	個体群の季節消長	河原辰夫			
	10	群集の生態	梶原武			
	11	フジツボの生活史と付着	平野禮次郎			
	12	アオノリ類の生活史	新崎盛敏			
	13	水産養殖生物における被害	荒川好満			
	14	電力被害	馬渡静夫			
	15	消底の汚損と船体抵抗の増加	宮嶋時三			
	1974		「付着動物と環境に関するシンポジウム」			10/24-25 東京大学海洋研究所(中野)
		16	浜名湖の付着動物の分布	梶原武		
		17	清水港の付着動物の分布	小坂昌也		
		18	付着動物における汚染指標種の検討	今島実		
		19	コケ虫類の発生と生態	馬渡静夫		
		20	ニュージーランドの潮間帯の露出度指標生物	M.G. Harcourt		
21		付着動物の飼育と意義	梶原武			
22		管棲多毛類の成長と意義	平野禮次郎			
23		コバンイタボヤの飼育とその環境指標動物としての可能性	中内光昭			
24		ミズクラゲの初期生活史-特にエフィラ形成に関する知見-	安田徹			
25		フジツボの分類と分布	山口寿之			
1976			「海産付着動物の生態に関するシンポジウム」			11/? 東京大学海洋研究所(中野)
	26	ホトギスガイの生態について	千葉健治			
	27	清水港におけるフジツボ類の分布生態について	小坂昌也			
	28	天敵による養殖ホタテガイの付着生物の防除	橋高二郎			
	29	管棲多毛類の生態と浮遊幼生期の飼育	木下秀明・平野禮次郎			
	30	群体ホヤの生活史	中内光昭			
	31	イソゴカイの生活史	吉田俊一			
	32	ミズクラゲの初期生活史	安田徹			
	33	東京湾における付着動物群集	梶原武			
	34	ハイドロゾアの生活史	柿沼好子			
	35	広島湾のカキ養殖場における付着動物の消長、特にムラサキガイについて	荒川好満			
	1979 論文	1	「付着生物研究」の創刊に寄せて	馬渡静夫	付着生物研究 1(1)	
		2	清水港における移入種アメリカフジツボBalanus eburneusの生態分布	小坂・石橋		
		3	付着生物浮遊期幼生の飼育法	加戸・平野		
		4	付着動物の調査法	梶原武		
5		付着動物の種類査定法(1)管棲多毛類	今島			
6		付着動物の種類査定法(2)日本の海岸に住むフジツボ類について	山口			
1980 論文	7	防汚効力の生物検定に関する研究-I	宮内	付着生物研究 2(1)		
	8	防汚効力の生物検定に関する研究-II	宮内			
	9	清水港岸壁上でのタテジマフジツボの成熟、成長、死亡の付着層間の比較	小坂・石橋			
	10	ウニによる養殖イタヤガイの付着生物の防除	勢村			
	11	ムラサキガイ幼生の行動	梶原・劉			
	12	東京湾における灯浮標上の多毛類	今島			
	13	日本近海における海産付着動物の移入について	荒川			
	14	附着生物調査の指数表示法	松宮			
	15	付着動物の種類査定法(3)	西川			
	16	付着動物の種類査定法(4)海綿類(石灰海綿、尋常海面)	星野			
	1981 論文	17	ミズクラゲの発生場所について	安田	付着生物研究 3(1)	
		18	イワフジツボの付着初期におけるカサガイとイボニシによる室内捕食実験	吉川・篠田		
19		防汚効力の生物検定に関する研究-III	宮内			
20		防汚効力の生物検定に関する研究-IV	宮内・山下			
21		ムラサキガイを餌料として数種の幼魚および幼エビの飼育実験	北村・水谷・道津			
22		庄内湖の環境と付着珪藻相について	広松・平野			
23		横須賀港におけるホトギスガイの生態-I	伊藤・梶原			
24		横須賀港におけるホトギスガイの生態-II	伊藤・梶原			
25		FRP調査船「たか丸」の塗料別による付着生物の状況調査	今島・林			
26		ウニによる付着生物の防除に関する基礎的研究	橋高・今村			
27		本邦で一般的なフジツボ数種の繁殖生態	岩城			
28		原子力発電所の温排水が生物に与える影響	安田・川代・日比野			
29		海中に垂下した軽石上の付着生物	安原 健允, 杉山 昌, 出口 吉昭			
30		付着動物の種類査定法(5)苔虫類	馬渡			
31		付着動物の種類査定法(6)ヒドロ虫類	山田			
1982 論文	32	原子力発電所の温排水が生物に与える影響	安田・川代・日比野	付着生物研究 4(1)		
	33	温排水域におけるタテジマフジツボの繁殖	塚本			
	34	海中垂下養殖ロブスターの付着生物による汚損	橋高・山田・塚本			
	35	海産付着動物の幼生生物学(1)管棲多毛類	三浦・梶原			
1982 Sym		「海産付着生物の生態・防除・利用に関するシンポジウム」		付着生物研究 4(2)	9/24・25 東京大学海洋研究所	
	36	海洋構造物の付着生物	伊藤			
	37	フジツボの分布生態	小坂			
	38	バクテリアの付着	多賀			
	39	フサコケムシ	北村			
	40	ムラサキガイ	坂口			
	41	管棲多毛類	三浦			
	42	フジツボ類	加戸			
	43	防汚効力の生物検定	宮内			
	44	付着生物の捕食者(ウニ、ロブスター)	橋高			
	45	付着生物の捕食者(貝類)	吉川			
	46	付着珪藻による環境指標	広松			
	47	温排水の指標生物	安田ほか			
	48	東京湾の指標付着生物	梶原			
1983 論文	36	フジツボ幼生の有機錳系防汚剤に対する各発育段階における抵抗力	近藤他	付着生物研究 4(2)		
	37	ウニの摂餌行動の解析	橋高ら			
	38	ムラサキガイの繁殖生態	梶原・劉			
	39	走査電子顕微鏡観察によるカンザシゴカイ類Hydroides 属3種の精子の形態	松尾・吉越			
1984 論文	40	伊豆半島鍋田湾におけるカジメ群落内の動物相について	三浦・林・梶原	付着生物研究 5(1)		
	41	自然海域でのフサコケムシ群体の成長・成熟	北村・平山			
	42	ウニ幼生に対する付着珪藻の変態促進効果	伊東			
	43	チタンおよびアルミニウム合金板に付着した海洋性微生物の走査電子顕微鏡観察	上村・荒木			
	44	瀬戸内海米島海峡におけるイガイ個体群の生産量の推定	伊藤・山本			
	45	付着苔虫類研究の近況	馬渡			
	46	生物検定法	二村			
1985 論文	47	東京湾奥部における潮間帯付着動物の分布生態	古瀬・風呂田	付着生物研究 5(2)		
	48	コノハエビの生態と飼育	天野・加戸・橋高			
	49	蔓脚類の組織学的研究-I	塚本			
	50	海洋性付着細菌に作用するバクテリオファージ	上村・荒木			
	51	室内飼育法によるフサコケムシ群体の成長と水温との関係	北村・平山			

	52	カンザシゴカイ類2種 <i>Hydroides fuscicola</i> およびヤッコカンザシゴカイの冬期における成熟促進	松尾・吉越・高			
1986 論文	53	表層の剥離による有節サンゴモ類の付着生物排除	藤田・正置	付着生物研究	6(1)	
	54	群体ボヤ <i>Botrylloides simodensis</i> の内陸飼育法の確立	川村・中内			
	55	知多湾における初期汚損生物群集中の自由生活動物について	平田			
	56	SCUBA潜水による付着生物相調査手法の検討	小川ほか			
	57	低酸素海中におけるムラサキガイの酸素消費量と生存日数	平井・林			
	58	原子力発電所の温排水が生物に与える影響	安田・日比野			
1988 論文	59	Amphipod Crustaceans as Fouling Organisms in Tungnyang Bay, Korea	Hong	付着生物研究	7(1-2)	
	60	伊勢湾豊浜地先における付着珪藻の季節変動	阿知波			
	61	緑藻アオサ場の季節的消長	大野			
	62	蔓脚類の組織学的研究-II	塚本			
	63	ムラサキガイの付着生態	坂口・梶原			
	64	アカフジツボの生態-I	伊藤・梶原			
	65	Observation on Barnacles Infected with Boring Polydora (<i>Polychaeta</i>) in Tokyo Bay	EL-Komi, Kajihara			
	66	熊野灘奈屋浦におけるイセエビ仔エビ礁の汚損生物群集	平田ら			
1990 論文	67	Observation on the Settlement and Growth of Barnacles in Tokyo Bay, Japan	EL-KOMI, K	付着生物研究	8(1-2)	
	68	無公害防汚塗料の防汚効果	齋藤ら			
	69	気仙沼湾の付着生物相と塩分	勝山			
	70	ベニクダウミヒドラの生残におよぼす残留塩素の影響	勝山ら			
	71	浸漬ロープによる付着生物調査	勝山・北村			
	72	海中に浸漬した金属板4種における生物付着状況	山下			
	73	タテジマフジツボの飼育下における成長	塚本			
	74	海中生物付着程度評価基準	宮嶋			
1991 Symp		「フジツボ類の生態・生物地理・分布に関する研究会」		付着生物研究	10/22-23	東京大学海洋研究所 大槌臨海研究センター
	49	フジツボ類付着の影響	宮嶋			
	50	フジツボ類の分類・生物地理および成長	山口			
	51	飼育下におけるタテジマフジツボの摂餌量と成長について	塚本			
	52	フジツボ類浮遊期幼生の形態と数種フジツボ類の付着生態	加戸			
	53	イワフジツボおよびクワフジツボ野外個体群の長期変動	森			
		Energy content studies on the fouling barnacle <i>Balanus amphitrite</i> , at Goa, west coast of India	Nandakumar			
	54					
	55	清水港でのイワフジツボとタテジマフジツボの生態	小坂			
	56	アカフジツボ付着群集の立体構造と成長に伴う形態変化	伊藤			
	57	フジツボの接着タンパク質の高分子化学	山本			
	58	アカフジツボのレクチンの構造と生理機能	村本			
	59	フジツボの忌避物質の探索とその効果	杉原			
	60	安全な防汚物質の探索法とその効果	宮内			
	61	薬剤によるフジツボ類の付着防除	西村			
	62	生理活性物質によるフジツボ類の付着防除	紺屋			
	63	流速増加によるフジツボ類の付着防除	川辺			
	64	熱・擦過による付着防除	坂口			
	65	植毛による生物付着防止	三木			
1992 論文	75	潮間帯での電気防食鋼材面の付着生物の着生	桑ら	付着生物研究	9(1-2)	
	76	フジツボ類の殻の剥離に要する荷重について	勝山ら			
	77	フジツボの付着期幼生を用いた付着関連物質のスクリーニング法とその検討	勝山ら			
	78	Salinity Tolerance in Four Estuarine Species of Bryozoa	Radhakrishnan et al.			
1993 論文	79	アコヤガイの接着タンパク質に関する研究-II	山本ら	付着生物研究	10(1)	
	80	Notes on Reproductive Biology of Some Serpulid Polychaetes at Sesoko Island, Okinawa, with On the Internal Structure of Calcified Tube Walls in Serpulidae and Spirorbidae (Annelida, Polychaeta)	Nishi Nishi			
	81					
	82	タテジマフジツボの飼育下における摂餌量および成長と海面下での成長	塚本			
1994 集会1	1	付着生物研究の歴史と展望			4/2	東電環境エンジニアリング(品川)
	2	付着・変態のメカニズム				
1994 論文	83	ふねがい科カリガネエガイの付着行動と接着タンパク質の研究	山本ら	付着生物研究	10(2)	
	84	海産付着珪藻の分類と生態	河村			
	85	付着生物の陸上と水中における重量について	勝山			
1994 論文	86	横浜港における潮間帯付着生物の種類組成と現存量	梶原	付着生物研究	11(1)	
	87	付着性二枚貝類三種の飼育およびムラサキガイの基盤上への付着について	山本ら			
	88	付着生物研究の歴史と展望	梶原			
	89	付着・変態のメカニズム	伏谷			
	90	アンケート調査結果について				
1995 論文	91	浜名湖庄内湖の付着生物相の最近15年間の変化	岡本	付着生物研究	11(2)	
	92	ムラサキガイとともに観察される繊維状生物の出現について	勝山			
1995 論文	93	穿孔性多毛類のアカガイ貝殻への穿孔状況とその駆除法	沼口	付着生物研究	12(1)	
	94	Inhibitory Effect of Ultrasonic Waves on the Larval Settlement of the Barnacle, <i>Balanus amphitrite</i> in the Laboratory	Kitamura et al.			
	95	端脚類による養殖アマノリの幼芽の食害	阿知波ら			
	96	ムラサキガイによる環境汚染物質監視	森田			
	97	バクテリアフィルムと付着生物幼生の付着について	大和田			
1995 集会2	3	東京湾の付着生物	伊藤・梶原	付着生物研究	12(1)	4/1: 東電環境エンジニアリング(品川)
	4	Fouling polychaeta of shirahama coastal waters	Raveendran & Harada			
	5	海面下50~80cmに垂下した各種材料付着板に付着した海産付着生物の種類と付着量の経時変化(第3報)	前田・北崎			
	6	タテジマフジツボ幼生の付着誘引物質	大上・土井・北村			
	7	暖流系フジツボ類幼生2種の付着日周期性について	加戸・栗田・奥山			
1995 Symp		「フジツボ類研究の現状と進展」		付着生物研究	12(2)	5/29 東京大学海洋研究所(中野)
	66	DNAによるフジツボ類の系統解析	山口ら			
	67	フジツボ類の卵生産	岩城			
	68	イワフジツボ類の幼生発生	金・山口			
	69	アカフジツボの接着タンパク質	紙野			
	70	キブリス幼生の着生に関与するタンパク質	松村			
	71	転石潮間帯のイワフジツボのバッチ状分布と生物間相互作用	森ら			
	72	ミネフジツボ幼生の摂餌生態	加戸・鈴木			
	73	沖合性付着生物と付着基盤	梶原			
	74	フジツボ類と二枚貝類との付着面占有	小坂			
	75	フジツボ類に対する紫外線の影響	川邊			
	76	フジツボ類幼生による生物検定と忌避物質	紺屋			
	77	ヨロイソギンチャクから抽出されたフジツボ類の忌避物質	杉原・松崎			
	78	海水低pHによる付着防止	中村			
1996 論文	98	イワフジツボおよびオオイワフジツボ(蔓脚亜綱, 完胸目, イワフジツボ科)の幼生発生と類縁関係	金・山口	付着生物研究	12(2)	
	99	東京湾に移住した外来種付着動物	梶原			
1996 論文	100	石灰藻のピリヒバより抽出された水溶性物質によるアカウニ幼生の変態誘起	高・北村・平1	Sess. Org.	13(1)	
	101	ジプロモメタンのムラサキウニおよびアカウニ幼生に対する変態誘起作用	高・土田・北村・平山			
	102	フジツボの付着と基盤の色	宮内			
	103	海洋付着生物の接着物質の化学	山本			
	104	クダウミヒドラ幼生の行動と着生要因の解析-付着メカニズム解明への手がかり-	山下			
	105	Sessile Organisms の刊行に当たって	梶原			
1996 集会3	8	アカフジツボ幼生の飼育および付着について	加戸・瀬川	Sess. Org.	13(1)	3/31 東電環境エンジニアリング(品川)
	9	CO2ガスを用いた付着生物防止技術の開発	中村ら			
	10	海洋汚損生物の網地への付着傾向とその評価法について	山口・北村ら			
	11	タテジマフジツボの成長に関する一考察	塚本			
	12	タテジマフジツボ幼生の付着誘起物質(第2報)	北村ら			
1997 論文	106	ムラサキガイかチレニアイガイか-動物和名選定のケーススタディ	西川	Sess. Org.,	13(2)	
	107	フサコケムシの成長を指標とした環境評価	北村			
	108	Settlement and Metamorphosis of Marine Invertebrate Larvae 国際学会に参加して	Glenn, 勝山			

1997 論文	109 110	Diel Fluctuations in Settlement of Subtidal Barnacles in Relation to Environmental Factors Distribution of Living and Fossil Coral Barnacles (Cirripedia: Pyrgomatidae) in Japan	Kado et al. Sess. Org., 14(1) Asami & Yamaguchi	
1997 集会4	13 14 15 16 17 18 19 20 21	東京湾の外來付着性二枚貝は都市型付着生物である 駿河湾に出現したミドリガイについて コウダカクフツツボは越喜来湾でも再生産している？ タテジマフツツボ幼生の付着に及ぼす表面改質の影響 西太平洋およびカリブ海産サコフツツボ類の分類・生物地理 ミトコンドリアDNAから見たフツツボ類の系統関係 CO ₂ を用いた付着生物防止技術の検討 実海流通水試験結果 付着珪藻および石灰藻によるウニ幼生の変態誘起 伏谷着生プロジェクトを振り返って	梶原 臼井ら 加戸ら 西田ら 朝見・山口 山口・長谷川 中村ら 土田・北村 廣田	Sess.Org. 14(1) 4/1 東京水産大学(品川)
1997 SJシンポ-1	79 80 81 82 83 84 85	「付着生物の研究法-室内実験と野外観察について」 フツツボ類の巨視的・微視的な形態、分布、生態などから何がわかったか？ タテジマフツツボ幼生の着生誘起物質 発電所のイガイ類調査 ムラサキイガイ幼生の着生機構-室内実験で得られた知見 ベニクダウミヒドラ幼生の着生とGLW-amide型ペプチド ヒドロ虫類の着生と環境 付着生物のケミカルシグナル	山口 北村 坂口 Glenn 山下 柿沼 伏谷	Sess. Org., 14(2) 9/31 電力中央研究所(我孫子)
1998 論文	111 112 113	Larval Development of Octomeris brunnea DARWIN (Cirripedia, Chthamaliidae, Euraphiinae) 鋼材面の付着生物と腐食量の関係 付着生物群集としての端脚類	Kim & Yamag Sess. Org., 14(2) 臼井ら 樋渡	
1998 論文	114 115 116 117	薄電浸漬電解システムによるフツツボ幼生の付着阻止 電気防食鋼材面の付着生物の経時変化 付着珪藻-その生態と付着生物群集における役割 細菌の遊泳速度と付着との関係について	宇佐美・北村 Sess. Org., 15(1) 桑ら 河村 木暮	
1998 集会5	22 23 24 25 26 27 28	タテジマフツツボ幼生に対する本種粗抽出液の付着誘起効果 The effect of nono-amino acids on larval settlement of the barnacle, Balanus amphitrite. 兵庫県姫路市におけるミドリガイの出現状況 油壺湾海水に浸漬した製鋼スラグへの生物の付着 火力発電所海水冷却系の付着生物対策について カワヒバリガイの付着忌避表面および接着タンパク質生成の試み 飼育によるカワヒバリガイ幼生の発生	信末・北村 Sess. Org., 15(1) Mishura & Kitamura 増田・脇本 浜田ら 若尾ら 本間ら 北村ら	
1999 論文	118 119 120 121	Revision of the Tetracitellinae and description of a new species of Newmanella ROSS from the tropical western-Atlantic Ocean (Cirripedia: Tetracitoidae) 金属の水酸化物面に対するイガイ類の付着忌避 タテジマフツツボ幼生の飼育法およびキブリス幼生を用いた循環流水式の付着試験法 倒立顕微鏡によるフツツボのキブリス幼生の変態観察法	Ross & Perré Sess. Org., 15(2) 大庭ら 北村 加戸	
1999 論文	122 123	ミズクラゲの生活と環境 サンゴモ類の生態	三宅 藤田	Sess. Org., 16(1)
1999 集会6	29 30 31 32 33 34 35 36 37	越喜来湾におけるチシマフツツボ幼生の分布動態 タテジマフツツボの成長に伴う変化 フツツボ類の付着時期I-その簡易推定法について- 金武橋におけるサラサフツツボの付着時期と成長 付着検定試験生物としての緑藻ミルの胞囊の検討 単離培養した付着珪藻フィルムに対するアクチヌラ幼生の反応 カワヒバリガイ接着タンパク質の生成とアミノ酸配列 ムラサキイガイ足糸の引っ張り強度について ウミタケ浮遊幼生の飼育と着底・変態	加戸ら 塚本 青山ら 坂口ら 難波ら 山下ら 大川ら 鈴木・秦 伊藤・江口	Sess. Org., 16(1) 4/5 東京水産大学(品川)
1999 SJシンポ-2	86 87 88 89 90 91	「付着性イガイ類の分類と分布-その実態に迫る」 寒海の事情-北海道におけるキタムラサキイガイとムラサキイガイ 熱帯からのなぐ見込み-ミドリガイの日本定着 カワヒバリガイ類の実態-その正体と移入経路 淡水への新たな侵入者-カワヒバリガイを巡る問題点 足糸からわかった日本のムラサキイガイ mtDNAに基づく紫イガイ類の系統解析-これからの展望	葉原 植田 北村 中井 井上 渡部・瀬崎	Sess. Org., 16(2) 10/29 船の科学館(品川)
2000 論文	124 125 126 127	Reexamination of a Little-known Mangrove Barnacle, Balanus patelliformis BRUGUIÈRE Arossella ANDERSON, 1993: What is the Type Species (Cirripedia: Balanomorpha)? ウニおよびナマコ生産用水槽の波板における付着珪藻密度とクロロフィルa量との関係 防食電流密度からみた付着基盤の設置方向と付着生物着生の関係	Puspasari et al. Sess. Org., 16(2) Ross 北村ら 桑ら	
2000 論文	128 129 130 131 132 133 134	伊勢湾と三河湾に出現したミドリイガイ Characteristics of Marine Adhesive Proteins and Preparation of Antifouling Surfaces for the Sessile Animals Assays for Evaluating Seaweed Attachment Using Isolated Utricles of Codium fragile (Codiales). Fouling of Ocean-Going Shipping and Its Role in the Spread of Exotic Species in the Seas of the Far East Coral-Eating Barnacles: Wall Morphology and the Descriptions of Two New Species ミズクラゲの電気刺激に対する反応についての基礎実験 タテジマフツツボキブリス幼生の付着・変態に関する情報伝達系	羽生・関口 Sess. Org., 17(1) Ohkawa et al. Nanba et al. Yu & Zvyagintsev Ross 山本ら 山本	
2000 集会7	38 39 40 41 42 43 44 45 46 47	ベニクダウミヒドラにおけるGLW-amide型神経ペプチドの発言とその多機能性 タテジマフツツボの飼育下での幼稚体初期の成長に及ぼす水温、餌生物密度および塩分の影 響 接着タンパク質の表面特性に基づく生物付着 忌避基盤の作成 各種金属の腐食と付着生物着生の関係 沖縄県具志川火力発電所冷却水路系 における生物付着状況 Phylogenetic relationship of Balanus patelliformis, Balanus rhizophorae and members of the Balanus amphitrite group, new record mangrove barnacles from South Thailand 河 口域 におけるフツツボ類の群形成 ムラサキイガイ足糸のSEMによる観察 酸素消費量からみたイ ガイ類3種の温度特性 緑藻ミルの胞囊を用いた海藻の付着検定システムの確立-検定用胞囊の選定	山下ら 塚本 大川原 大庭ら 坂口ら Puspasari & Yamaguchi 岩城・森田 秦・鈴木 磯野・喜田 難波ら	Sess. Org., 17(1) 4/5 東京水産大学(品川)
2000 SJシンポmini	92 93 94 95 96 97	「21世紀の付着生物研究の展望を語る」 生物由来高分子接着物質の研究 と応用 アワビの初期生態と付着珪藻の係わり-相互関係 を利用 した種苗生産技術- アワビ類の幼生の生理・生態-実験データから野外の調査結果を検討する 新 た な 生 態 系 としての 発 電 所 に つ い て 防汚塗料の歴史と将来像 フツツボの着生 を誘起するタンパク質	大川 河村 山川 中村 岸原 松村	Sess. Org. 18(1) 10/27 千葉大バイオシステム 研究センター(館山)
2001 論文	135 136 137 138 139	Laboratory culture of Balanus trigonus larvae by the method of B. amphitrite for establishing a Phylogeny of the Balanus amphitrite complex occurring in Japan (Cirripedia: Balanidae) inferred A new coral barnacle, Trevathana paulyi (Cirripedia: Pyrgomatidae), from Guam Balanus thailandicus sp. nov., a new mangrove barnacle of the Balanus amphitrite complex (Cirripedia, Balanomorpha) from Satun, Southwest Thailand 三河湾における各種金属およびプラスチック材料の生物汚損度の比較	Mishura et al Sess. Org., 18(1) Puspasari et al. Asami & Yamaguchi Puspasari et al. 前田ら	
2001 論文	140 141	Long-term maintenance of germlings of Sargassum horneri and S. yezoense (Fucales, Phaeophyceae) at low photon irradiance タテジマフツツボ幼体の飼育下での成長に及ぼす水温と餌生物密度の影響	Nanba et al. 塚本	Sess. Org., 19(1)
2001 集会8	48 49 50 51 52 53 54 55 56	ムラサキイガイ足糸形成機構 に関する考察 江ノ島におけるミドリガイの生殖周期 ドリイガイの表面改質基盤 に対する付着挙動 および接着 タンパク質の精製 赤穂発電所取水海水 における主な付着動物幼生の 出現状況 水深80mに設置した石灰炭人工魚礁における生物着生状況 付着二枚貝類の呼吸 東京湾奥部海域の付着生物と電気防食効果 タテジマフツツボ幼生の付着に及ぼす微生物フィルムの効果 タテジマフツツボ抽出液より得られる低分子の付着誘起物質	秦・鈴木 小沢ら 西田ら 山下ら 友田・北村 岩城 今野ら 城内・北村 谷口ら	Sess. Org., 18(2) 4/5 東京大学弥生講堂(文京区)

	57	タテジマフジツボ幼生に対する付着誘起 フェロモン	白石ら	
	58	サンカクフジツボの付着時期と成長に及ぼす水温の影響 について	上田ら	
	59	北日本の太平洋岸に侵入したフジツボ <i>Balanus glandula</i> Darwin (キタアメリカ フジツボ: 新	加戸・難波	
2001 SJシンポ		「付着生物研究と電力事業」		Sess. Org., 19(1)
	98	付着生物の出現状況、最近の動向	大谷	
	99	SEM像からみた足糸の微細構造と形成機構	泰	
	100	イガイ類接着物質の化学	大川	
	101	フジツボ幼生における付着場所の選択-着生誘起物質と基盤性状の重要性-	松村	
	102	瀬戸内海でのアカフジツボの出現状況と取水路清掃ロボットによる除去	川端・島田	
	103	腔腸動物幼生の着生に關与する外的・内的要因	山下	
	104	汚損生物対策技術の展望	坂口	
	105	付着生物対策と電気事業-今後の課題-	清野	
2002 論文	142	東京湾奥部における電気防食鋼材面の付着生物	菅根ら	Sess. Org., 19(2)
		Notes on the coral-inhabiting Megatrematinae and the description of a new tribe, new genus	Ross & Pitombo	
	143	and three new species (Cirripedia: Sessilia: Pyrgomatidae)		
	144	日本における移入付着動物の出現状況、最近の動向	大谷	
		タテジマフジツボおよびアカフジツボキブリス幼生の着生における着生誘起タンパク質と付着基	松村ら	
	145	盤性状の重要性		
	146	藻場の繁茂と磯焼け-数学モデルで見るその境界	本多	
	147	イガイ類接着物質の化学	大川	
	148	腔腸動物幼生の着生に關与する外的・内的要因	山下・伏谷	
	149	ミズクラゲのポリプ期における生態 特に大量発生との関連	石井・渡邊	
2002 集会9	60	ミドリイガイの越冬地および非越冬地における水温条件	植田・嶋山	Sess. Org., 20(1)
	61	フジツボ類、マガキおよびムラサキイガイの帯状分布 と幼生加入過程	羽生・関口	4/5 東京水産大学(品川)
	62	川越火力発電所冷却取水管の生物付着状況	鈴木ら	
	63	付着性二枚貝類-潮間帯種 および亞潮間帯種-の空中呼吸	岩城	
	64	水深80mに設置した石灰灰人工魚礁における生物着生状況(その2)	友田ら	
	65	タテジマフジツボ幼生の付着を誘起する培養付着珪藻 フィルムの糖関連物質	城内・北村	
	66	コンクリート基盤へのバルス電流印加 によるムラサキ イガイ成体の付着に関する実験	山木ら	
	67	ムラサキイガイ・ムラサキイガイ移動時における足糸、特に stem の状態	泰・鈴木	
	68	日本産ミドリイガイ属におけるミトコンドリアDNAの塩基配列比較	吉安ら	
	69	ミドリイガイ接着 タンパク質の精製とアミノ酸配列	大川ら	
	70	緑藻ミルの繊維状藻体を使った付着検 定方法の検討	難波ら	
	71	緑藻ミルの繊維状藻体の付着に対するCa ²⁺ とMg ²⁺ の影響	小室ら	
2003 論文	150	海産付着生物の目視による付着評価値と付着生物湿重量との関係	前田ら	Sess. Org., 20(1)
		The introduction of the ascidian <i>Molgula manhattensis</i> (De Kay, 1843) into Peter the Great Bay	Zvyagintsev et al.	
	151	(Sea of Japan)		
	152	付着生物対策と電気事業	清野	
	153	発電所の汚損生物対策技術の展望	坂口	
2003 論文	154	The effects of environmental light condition on strobilation in <i>Aurelia aurita</i> polyps	Ishii & Shioi	Sess. Org., 20(2)
	155	上水道施設におけるカワヒバリガイの生態と対策	後藤	
	156	チシマフジツボ幼生の回帰と環境要因	加戸	
	157	Experimental study of growth and asexual reproduction in <i>Aurelia aurita</i> polyps	Ishi & Watanabe	
2003 集会10	72	フジツボ類、マガキおよびムラサキイガイの帯状分布の形成機構-その2-	羽生・関口	Sess. Org., 20(2)
	73	Biogeography of Intertidal Barnacle in Indonesian and Surroundings Seas.	Purabowo & Yamaguchi	4/5 東京水産大学(品川)
	74	フジツボ類 キブリス幼 生の特異 的な蛍光発 光 と種類識別化に関する検討	神谷ら	
	75	クロフジツボ科の分子系統 ミトコンドリアDNAを用いたクロフジツボ科の属間の系統解析	佐藤・山口	
	76	イフジツボ科の分子系統	杉本・山口	
	77	イガイ足および足糸におけるNBT反応およびDOPA反応の分	泰・鈴木	
	78	伊勢湾に おけるエフィラの分布状 況	青山ら	
	79	伊勢湾に おけるポリプの生息状況	金本ら	
	80	伊勢湾に おける ミズ クラゲの発生海域	塚田ら	
	81	若狭湾西部海域に おける ミズクラゲの遺伝的 多型解析 の試み	松村ら	
	82	ホタテガイ垂下式養殖籠に付着す るワレカラ群集の分布構造	三浦・桑原	
	83	網走湖コン群落のplankton・metaphyton・periphyton調査による periphyton 実 証	桑原	
	84	綿不織布(海綿スポンジくず入り) 加工による藻・貝類の付着防止効果	安田ら	
	85	GAFシステムの防汚実証実験	松下	
2003 30周年号		日本付着生物学会創立30周年記念講演会		Sess. Org., 20 Special 10/? 東京大学山上会議所(文京区)
	106	第二次大戦後の付着生物研究事始	梶原	
	107	付着生物研究の回顧	宮嶋	
	108	清水港での付着動物の生態	小坂	
	109	付着生物研究事始-フジツボ幼生の大量飼育	平野	
	110	ムラサキイガイ防汚の初期研究とその後の付着生物研究	桑原	
	111	私がいまだに付着生物学会会員である理由	星合	
	112	化石から分子系統へ	山口	
	113	日本付着生物学会30年の歩み	平野・梶原・山口	
2004 論文	158	Combination of macroalgae-conditioned water and periphytic diatom <i>Navicula ramosissima</i> as an inducer of larval metamorphosis in the sea urchins <i>Anthocidaris crassispina</i> and	Yu Li et al.	Sess. Org., 21(1)
		The role of diatom-based film as an inducer of metamorphosis in larvae of two species of sea	Ab Rahim et al.	
	159	urchin, <i>Pseudocentrotus depressus</i> and <i>Anthocidaris crassispina</i>		
	160	ウミタケ浮遊幼生の飼育と着底・変態	伊藤・江口	
	161	相模湾、江ノ島におけるミドリイガイの生殖年周期	吉安ら	
2004 論文	162	石灰藻シリヒバ分泌液に含まれるムラサキウニ幼生の変態を誘起する活性物質の特性	李ら	Sess. Org., 21(2)
	163	Molecular phylogeny of thoracican barnacles based on the mitochondrial 12S and 16S rRNA	Begum et al.	
	164	熱交換器の生物損傷対策技術の開発	川辺	
	165	潜水調査船が暴いた深海生物の生態	藤倉	
2004 集会11	86	日本産 <i>Chthamalus</i> 属の再検討 (フジツボ類 イワフジツボ属)	久恒・山口	Sess. Org., 21(2)
		A new mangrove barnacle of the <i>Balanus amphitrite</i> complex from Sumbawa Island, Indonesia	Prabowo & Yamaguchi	4/6 東京大学弥生講堂(文京区)
	87	(フジツボ類タテジマフジツボ属)		
	88	タテジマフジツボ幼 生の付 着を誘起 す る付 着 珪 藻 <i>Navicula ramosissima</i> の糖関連物質	横山ら	
	89	宮城県志津川湾に お けるアカフジツボの付着時期と基盤による付着状況の違いについて	野方ら	
	90	カメノテの繁殖と加入について	岩城	
	91	ムラサキイガイ幼生の変態に対する微生物フィルム の役割	色ら	
	92	ムラサキイガイ幼 生の冷蔵 保存法の検討	グレンら	
	93	ミドリイガイ足 糸前駆体糖 タンパク質	大川ら	
	94	タウシウニによる海 洋構 造物の塗膜損傷 について	小林ら	
	95	カワヒバリガイの電気バルス による付着 防止方 法	前田ら	
	96	フジツボ 水中接 着 タンパク質cp-100kの 多様 性に関する解析	正垣ら	
2004 SJシンポ		「人とフジツボとの関わり」		Sess. Org., 22(1)
	114	フジツボの分類と進化 (貝とどこが違うのか、その個性と歴史)	山口	11/18 日本科学未来館(江東区)
	115	フジツボの生活史と生態 (どんな生活をして、付着場所までたどり着くのか)	加戸	
	116	フジツボの生態、地域性 および季節 的消長 (日本と香港 とを比べてみる)	Chan	
	117	フジツボの付着 (集まってくっつくユニークなしくみ)	松村ら	
	118	発電所 とフジツボ (うまく付き合おうと見えてくる新しい光)	山下・神谷	
	119	船とフジツボ (付着 による推 進への影響 は?)	内田	
	120	フジツボと新規防汚 塗料 (付着 生物 でフジツボを防ぐ)	川又	
	121	フジツボと電気化学 (電気を使 っ て付着 を防ぐ)	川辺	
	122	珍味 なフジツボ (こんな食材 あった んだ)	押野	
	123	生理活性物 質の資源としての利 用 : (知られ ざるフジツボのスーパーパワ-)	村本	
	124	フジツボによるコンクリート構 造物の耐久性 向上(フジツボがコンクリートを守る	濱田	
	125	自然教育 の教材としての魅力	林	
2005 論文	166	バイブ内流水下での直流電気バルス刺激によるカワヒバリガイ幼生の運動抑制	勝山ら	Sess. Org., 22(1)
	167	野外におけるタテジマフジツボの蔓脚運動に及ぼす水温、塩分、珪藻密度の影響	塚本	
2005 論文	168	アカウニ、ムラサキウニ幼生の変態誘起物質について	北村	Sess. Org., 22(2)
	169	発電所の取水影響と付着生物	原ら	
	170	アミメフジツボ、東京湾で初確認	姫越・岡本	

2005 集会12	97	2004年 東京湾の付着生物相	堀越・岡本	Sess. Org., 23(1)	
	98	ムラサキガイ幼生の変態に対する微生物フィルムの役割-II	包ら		
	99	周期的な圧力変動下におけるタテジマフジツボ幼生の付着状況について	野方ら		
	100	伊豆・小笠原弧の明神海丘の熱水噴出域に生息する2種類の蔓脚類の生態的特徴について	根本ら		
	101	Antiequatorial distribution of the two <i>Fistulobalanus kondakovi</i> populations in Indo-West	Prabowo & Yamaguchi		
	102	ケハダカイメンフジツボ (<i>Acasta dofeini</i>) 幼生 の海綿への付着 について	野方ら		
	103	カメフジツボを用いたアオウミガメの回遊経路追跡〜フジツボ類は好きなカメ・嫌いなカメを選	林・北村		
	104	タテジマフジツボ幼生の着生を誘起するWaterborneCue	松村ら		
2005 miniシンポ		「研究への想いを語る」		Sess. Org., 23	11/25 新江ノ島水族館(藤沢)
	126	Morphological phylogeny of the genus <i>Chthamalus</i> (Cirripedia: Balanomorpha)	Prabowo		
	127	東京湾におけるムラサキガイの生態	小澤		
	128	微生物酵素(プリオン分解酵素)によるクラゲの分解処理技術	土井		
	129	ハオリムシ類の飼育と初期発生	三宅		
	130	アカフジツボ・レクチンのバイオミネラリゼーションへの関与	松原		
	131	褐藻ヒジキの養殖システムの開発に関する研究	佐藤		
	132	マナマコの色変異に関する遺伝育種学的研究	菅野		
	133	深海フジツボの生態学的研究	渡部		
	134	内湾干潟の生物(三番瀬のカキ群集)から環境問題を考える	高島		
	135	東京湾、私の原点	堀越		
2006 論文	171	フジツボ類の分類および鑑定の手引き	山口・久恒	Sess. Org., 23(2)	
	172	沖繩の発電所におけるフジツボの付着と成長	坂口・波平		
2006 論文	173	The shallow-water barnacles (Cirripedia, Balanomorpha) of Bahía de La Paz, Baja California Sur, México, including seven previously unrecorded species and amended descriptions of three species	Gomez-Daghi	Sess. Org., 23(2)	
	174	外来付着動物と特定外来生物被害防止法	岩崎		
	175	港湾環境における付着生物群集の捉え方	古川		
	176	アカフジツボ幼生飼育条件に関する検討	吉村ら		
	177	フジツボ幼生の簡便な飼育方法について	吉村ら		
		Effect of emetine, a protein synthesis inhibitor, on larval tail resorption in the ascidian <i>Halocynthia roretzi</i>	Matsumura et al.		
2006 集会13	105	淡水産腹足類リムネア脚紐における生体 防御 システムについて	内山ら	Sess. Org., 23(2)	
	106	ミドリイガイ足系の先端接着 円盤 を形成 するタンパク質	大川ら		
	107	ミドリイガイの 温度 耐性 について	渡辺ら		
	108	ムラサキガイとムラサキインコガイの微視的分布	秦・松谷		
	109	四国・九州沿岸におけるミドリイガイの最近の動 向	植田		
	110	微細凹凸金属基盤上におけるキプリス幼生の付着挙動	堀内ら		
	111	アカフジツボキプリス幼生の飼育及び付着・変態実験 について	中村ら		
	112	タテジマフジツボの移入分散経路に関する遺伝学的考察	北村ら		
	113	オニフジツボの幼生発生と着生	松村ら		
	114	アカフジツボキプリス幼生におけるセメント放 出前後の行動の解析	高橋ら		
	115	東京湾 の付着 生物相 (2004~2005年)-海岸 および灯浮標調査の結果から	堀越・岡本		
	116	網状構造体基盤への サンゴ群集の着生特性	山本ら		
	117	岩手 県産ワカメ養 殖株の凍結保存 に関する研究	宮原ら		
	118	波長別吸光度 による河床付着藻類群集の測定と河川環境評価	松本ら		
	119	付着生物の糞による発電所取水 系のモニタリング方法	青山ら		
	120	海 洋生物に対するマイクロ・ナノバブルの効 果-特 に付着生物に対して-	木島ら		
2007 論文	179	宮城県志津川湾におけるミネフジツボの個体群動態	山内ら	Sess. Org., 24(1)	
	180	東京湾海岸部における潮間帯付着生物群集の現状	堀越・岡本		
	181	東京湾における灯浮標上の付着生物群集の現状	堀越・岡本		
2007 論文	182	アサリ浮遊幼生の分散と着底	浜口・手塚	Sess. Org., 24(2)	
	183	異体類の接岸着底機構	和田		
	184	ホンダワラ類海藻幼胚の着生特性	本多		
	185	アワビ類浮遊幼生の着底場選択とその生態学的意義	河村		
	186	海産小型甲殻類の宿主利用機構 陸上植物食性昆虫との対比	熊谷		
	187	サンゴ礁魚類浮遊仔魚の着底場選択機構	中村		
	188	フジツボ幼生の着生機構 着生フェロモン研究の新たな展開	松村		
	189	カタユウレイボヤにおける固着生活とセルロースの関係	笹倉		
	190	フジツボの着底・変態機構を応用した防汚技術	野方		
	191	新長崎漁港における石炭灰コンクリート基板に対する付着生物調査	友田ら		
	192	ホヤの遺伝子発現を指標にした汚染化学物質の検出・影響評価法の開発	安住		
	193	相模湾で採集されたシロヒメガキ(軟体動物,二枚貝綱)の生態	倉持		
2007 SJシンポ		「海洋生物の着底と変態」		Sess. Org., 24(1)	10/25・26 東京大学弥生講堂(文京区)
	136	フジツボ幼生の分散と成体の分 布	加戸		
	137	造礁 サンゴ幼生の分散戦略: 浮遊期間 と栄養特性	波利井		
	138	アサリ浮 遊 幼 生 の 分 散 と 着 底	浜口		
	139	異体類の接岸着底機構: カレイ類5種 の形態発育と低塩耐性	和田		
	140	ムラサキガイ幼生 の 付着機構	包ら		
	141	ホンダワラ類海藻幼胚の付着特性	本多		
	142	アワビ類 浮遊幼 生 の着底場選 択機構	河村		
	143	魚類に寄生する単生類の宿 主選択と宿主特異性	良永		
	144	イソバナ専住性ヨコエビの分散 と宿 主選 択機構	熊谷		
	145	ウミクワガタ類の生活史と宿主 子生息場選択機構	田中		
	146	サンゴ礁魚類浮遊仔魚の着底場選択機構	中村		
	147	フジツボ幼生の着 生機構: 着 生フェロモンSIPCの 機能と構造	松村		
	148	ミドリイサンゴの着 底・変 態 の 制 御 機構	服田		
	149	カタユウレイボヤにおける固着 生活 とセル ロースの関係	笹倉		
	150	マガキの着底・変態機構 を利用 した人工採苗技術	平田		
	151	フジツボの着底・変態機構 を利用 した防汚技術	野方		
2007 集会14	121	ムラサキガイおよびムラサキインコガイ稚 貝の行動を光顕・SEM観 察より推察する	秦・松成	Sess. Org., 24(2)	3/31 東京海洋大学(品川)
	122	ムラサキガイとムラサキインコガイの微視的分布(II)	秦・松成		
	123	ムラサキガイ (<i>Mytilus galloprovincialis</i>) の 群居性について (予報)	揚ら		
	124	酸 処理による貝類硬組織の可溶化および分離 肉質部のメタン発酵特性	越川ら		
	125	大阪湾で発見 された移入種 <i>Rhithropanopeus harrisi</i> (甲殻綱: Panopeidae) と <i>Hydroides</i>	大谷・山西		
	126	フジツボ観察による環境教育事例報告 東京港野鳥公園行事「フジツボのこどもを見てみよう」	中瀬		
	127	微細凹凸金属基盤上におけるキプリス幼生の付着挙動 その2	堀内ら		
	128	高分子ゲル上 におけるタテジマフジツボキ プリス幼生の着生挙動	室崎ら		
	129	オニフジツボ (<i>Coronula diadema</i>) のクジラ皮膚への付着様式に関する予備的研究	藤原ら		
	130	鯨類寄生性オニフジツボ (<i>Coronula diadema</i>) の幼生の発生段階の観察、および繁殖 時期	藤本ら		
	131	東京湾潮間帯部におけるフジツボ類の分布	藤本ら		
	132	ミトコンドリアDNA (COI遺伝子)を用いた外来種 <i>Balanus glandula</i> の移入ルートの推定	佐野・山口		
	133	移入種キタアメリカフジツボ (<i>Balanus glandula</i>)と在来フジツボの分布に及ぼす環境要因	岸野ら		
		Phylogeography and genetic divergence of <i>Fistulobalanus kondakovi</i> between two antiequatorial populations: Southern Australian and Asian	Prabowo et al.		
	134	アカフジツボの接着層の解析	紙野・野方		
	135	九州地方西部にお けるミドリイガイの最近 の動 向	植田		
	136	過去80年 の研究報告から推定した東京湾 の付着 生物群集の変遷	堀越・岡本		
2008 論文	194	造礁サンゴ幼生の分散過程:分散範囲を規定する幼生の定着可能期間とエネルギー源	波利井	Sess. Org., 25(1)	
	195	ムラサキガイ幼生の着生機構	包ら		
	196	岩手県越喜来湾における褐藻ヒジキの多回収穫型養殖	難波ら		
	197	室内における石炭灰コンクリート基板に対するタテジマフジツボ幼生の付着実験	友田ら		
	198	海域で形成された微生物フィルムに対するタテジマフジツボ幼生の付着	城内ら		
	199	安定同位体 $\delta^{15}N$ を用いたモデル実験による浜名湖における垂直護岸と砂浜域の窒素フローの	植松ら		
	200	船底防汚塗料と海洋環境問題	千田		
2008 論文	201	ヒンギスの多回収穫型養殖における汚損生物マコンブとムラサキガイに対する温海水処理	難波ら	Sess. Org., 25(2)	
	202	養生温度がムラサキガイ付着盤の接着強度におよぼす影響	青木ら		
2008 集会15	138	富士山沿岸域に分布するイカイ類とそれらのHsp70	野徳ら	Sess. Org., 25(2)	4/1 東京海洋大学(品川)

	139	長距離フェリーの船底における取りイガイの付着	植田		
	140	ムラサキイガイ (<i>Mytilus galloprovincialis</i>) 幼生の変態に与える各種市販試薬の影響	揚ら		
	141	マガキ幼生に対する微生物フィルム付着・変態誘起効果	グレンら		
	142	大塩貯水池直下流の水路トンネルにおけるカワヒバリガイの分布および付着生物相について	小林ら		
	143	導水路で連結された二つの貯水池におけるカワヒバリガイ幼生の発生動態	中野ら		
	144	海綿フジツボ入門	周藤・山口		
	145	外来種キタアメリカフジツボと在来種シロスジフジツボの帯状分布の成因について	太田ら		
	146	新たな外来フジツボ類について	大城・山口		
	147	動態追跡によるゲル状での富士壺キブリス幼生の探索行動解析	室崎ら		
	148	リアルタイムPCRによる汚損性フジツボ幼生の定量的検出	松村ら		
	149	群体ホヤ <i>Aplidium yamazui</i> に帰着するカイアシ類 <i>Idomene</i> sp. の生態学的研究	齋藤・岩崎		
	150	海藻類に及ぼす次亜塩素酸ソーダ処理の影響	原ら		
	151	発電所取水海水における付着生物幼生の出現状況と簡易付着モニタリング法の検討	太田ら		
	152	光ファイバAE計測システムを用いた配管の閉塞検出	松尾ら		
2008 国際シンポ		「フジツボ生物学の最前線」		Sess. Org., 26(1)	8/1 神戸大学(深江キャンパス)
	152	Introduction to Japan of aht titan barnacle, <i>Megabalanus coccopoma</i> (Darwin, 1854) (Cirripedia: Yamaguchi et al.)			
	153	Phylogeny of two close related species of <i>Balanus</i> amphitrite complex, <i>Balanus variegatus</i> and <i>Balanus kondakovi</i> ; relolving the morphological similarity. Prabowo et al.			
	154	Cypris morphology, settlement and metamorphosi in cirripedes: Evolution within a rigid morphological constraint. Hoeg JT			
	155	Sticking to the task: the importance of SIPC, a putative multimodal protein, to barnacle settlement. Clare AS			
	156	Morphological variation and biogeography of an insular intertidal barnacle <i>Hexehamaesiphon pilsbryi</i> (Crustacea: Cirripedia) in the Western Pacific. Chan an Southward			
	157	Role of thached barnacle <i>Semibalanus cariosus</i> in the intertidal community of Okkirai Bay in north-east coast of Japan. Kado et al			
	158	Molecular basis for the permanent attachment of the cyprid of the barnacle, <i>Megabalanus rosa</i> . Okano et al.			
	159	Dispersal of vent barnacle of genus <i>Neoverruca</i> in the Western Pacific, inferred from the larval ecology and gene flow. Watanabe et al.			
	160	Larval settlement of the hydrothermal vent barnacle, <i>Neoverruca</i> sp.: Field experiment on Myojin Knol in the Izu-Ogasawara Arc. Matsumura et al.			
	161	Studies toward the structure and function analyses of SIPC (sellment-incudcin protein complex) from <i>Balanus amphitrite</i> . Hirota et al.			
	162	Structure-activity relationship studies toward anti-barnacle activity and bio-organic studies for understanding the mechanism of the action of anti-fouling active compounds wht Kitano et al.			
	163	Mode of action of medetomidine as barnacle antifoulant. A pharmacological evaluation. Hasselberg et al.			
	164	Bulk of barnacle cement. Kamino			
2009 論文	203	越喜来湾に移植したおけるミネフジツボの再生産、成長および食性と養殖への課題	加戸ら	Sess. Org., 26(1)	
	204	東京湾潮間帯におけるフジツボ類の分布	藤木ら		
	205	船底防汚塗料に用いられる亜鉛ピリチオンおよび銅ピリチオンの環境影響	岡村		
	206	里海と付着生物	乾		
2009 論文	207	バイオフィルム内の微視的環境	森崎	Sess. Org., 26(2)	
	208	タテジマフジツボのキブリス幼生付着器官の寸法と測定方法の検討	勝山ら		
		変態有機性アミノ酸は抗菌制御LAOによる酸化分解をどうクリアするか?直接発生型腹足類リムネアの場合	見越ら	Sess. Org., 26(2)	
2009 集会16	153	傾向プローブ化合物を用いたフジツボキブリス幼生に関する生物有機化学的研究	秋間ら		
	154	その後の <i>Megabalanus coccopoma</i> の国内分布など	山口ら		
	155	外来種キタアメリカフジツボと在来種フジツボ2種による帯状分布の成因について	加戸ら		
	156	相模湾および周辺海域における2001年以降のミドリイガイの生息状況	植田		
	157	ムラサキイガイとムラサキイガイの微視的分布-III	秦・松谷		
	158	富山湾沿岸域に生ずるイガイ類2種に対する高温海水の影響	紅谷ら		
	159	ムラサキイガイが持つ重油分解成分の探索	酒徳ら		
	160	ヒバリガイもどき <i>Hormomya mutabilis</i> の浮遊幼生および着底稚貝の形態について	山田ら		
	161	リアルタイムPCRを用いたカワヒバリガイ幼生の定量的検出	遠藤ら		
	162	外来種二枚貝カワヒバリガイへの付着初期における捕食圧	中野ら		
	163	カワヒバリガイの水温反応特性に関する考察—カワヒバリガイの生存可能水温—	小林ら		
	164	カワヒバリガイ防除に関する基礎的検討	坂口ら		
	165	ウミガメ体表の付着生物群集	北地・北村		
	166	着生数を60%に減らせる作用により付着成体数も60%に減るか?作用により着生数が増加すシリコン系塗料の防汚効果	川辺		
	167		森		
2009 miniシンポ		「カワヒバリガイの侵入と対策に関するミニシンポジウム」		Sess. Org., 27(1)	10/3 いわて国際交流センター(盛岡)
	165	カワヒバリガイ問題の始まり	中井		
	166	中部地方の状況について	濱田		
	167	カワヒバリガイの分布状況	伊藤		
	168	カワヒバリガイの成体について—現地調査と飼育実験による解析—	小林		
	169	カワヒバリガイの遺伝子が語るもの	松木		
	170	カワヒバリガイの国内と海外における分布の現状	木村		
	171	農林水産省の取組	菊池・川中		
	172	電気事業での取組	坂口		
	173	国立環境研究所における取組	五箇		
2010 論文	209	「カワヒバリガイ問題」の始まりと現在の仮題	中井	Sess. Org., 27(1)	
	210	中部地方におけるカワヒバリガイ <i>Limnoperna fortunei</i> の侵入の歴史と現状	濱田		
	211	関東地域における特定外来生物カワヒバリガイの現状と侵入・拡大プロセス	伊藤		
	212	大塩貯水池および竹沼貯水池におけるカワヒバリガイの生態について—現地調査と飼育実験	小林ら		
		カワヒバリガイの遺伝子が語るもの—遺伝子解析技術を用いたカワヒバリガイ浮遊期幼生の検出・定量	遠藤ら		
	213				
	214	高知県浦内湾におけるミドリイガイの生息場所利用と水平分布	山田ら		
	215	カキ筏の付着動物に対する銅線被覆素材各種の防汚特性比較	齋藤・山本		
2010 論文	216	神戸市兵庫運河(新川)に垂下した試験板上のタテジマフジツボから供給される幼生数の推定	塚本	Sess. Org., 27(2)	
	217	付着生物群集でつながる海洋の生物生産システム—二枚貝養殖漁場を例として—	伊藤		
	218	ホヤ(海鞘)プラズマローゲンによる認知症予防に向けた基礎的取り組み	宮澤ら		
	219	東京湾の外来種ココボーマカフジツボ—2004—2005年の灯浮標サンプルの再同定	山口ら		
		直接発生型腹足類の卵塊付着と違いの脱出法について—有肺類リムネア <i>Lymnaea stagnalis</i> の場合—	尾城ら	Sess. Org., 27(2)	3/31 東京海洋大学(品川)
2010 集会17	169	九州西部沿岸における2009年のミドリイガイの分布状況	植田ら		
	170	貯水池からの距離に応じた導水路でのカワヒバリガイ流量と付着量の変化	中野ら		
	171	カワヒバリガイが利用可能な餌種に関して	小林ら		
	172	ココボーマカフジツボの日本での分布—歴史と現状—	山口ら		
	173	ゲル存在下におけるキブリス幼生の密度付着行動	室崎ら		
	174	Growing process of barnacle on the substrates with different elasticity	Ahmed et al.		
	175	大阪湾における外来種 <i>Hydroides dianthus</i> (ナデシコカンザシ) の分布と侵入の制限要因について	大谷・山西		
	176				
	177	岩手県産ワカメの地方個体群間の形態の違い	難波ら		
	178	アカフジツボ接合層のバルク固化機構の解析	紙野		
	179	アザミ珊瑚の性分化・性成熟にともなう卵タンパク質の蓄積について	中島ら		
	180	ヒゲナガカワヒバリガイ幼虫糸腺のタンパク質組成解析および果系タンパク質の同定	大川ら		
	181	キタムラサキウニの発生に及ぼす海藻類抽出液の影響	小茂田ら		
	182	海洋生物由来のミズクラゲプラズマ・ポリブの着生阻害物質の探索—スクリーニングの結果について—	野方ら		
	183	海洋資材としての生分解性素材とバイオフィルム			
	184	熱交換器の生物皮膜—管式とプレート式との比較	塚村ら		
2010 梶原先生追悼シンポ		「我が国の付着生物研究の足跡と今後の展望」		Sess. Org., 28(1)	10/15 北里大薬学部 コンベンションホール(白金)
	174	廃油ボール状の付着生物群集について	宮内		
	175	海洋構造物と汚損生物	伊藤		

	176	梶原先生とヨコエビ類研究について	樋渡
	177	「梶原先生のスタミナトネル」回遊研究への誘い	塚本
	178	発電所の汚損生物対策	坂口
	179	数種幼生の付着シグナル	北村
	180	フジツボの幼生は何を感じて着生するのか？-その分岐機構を少し視点を変えて考えて見る-	松村
	181	フジツボ幼生の定着・加入を決める要因-今後注目すべき要因-	加戸
	182	新たな外来フジツボ、最新情報とその遺伝的特性	山口ら
	183	自然科学の視点から	渡部
	184	応用の視点から	野方
2011 論文	220	清水港に流入する巴川感潮域に設置した実験板に付着した海洋付着生物の分布について	花房
	221	琵琶湖およびその周辺水域における特定外来生物カワヒバリガイの分布状況	木村ら
2011 論文	222	日本沿岸産フジツボ類4種の幼生付着に与える塩分の影響	野方ら
			Sess. Org., 28(2)
2011 集会18	185	タテジマフジツボキブリス幼生のハイドロゲル上における探索行動	小川ら
			Sess. Org., 28(2)
	186	大船渡湾におけるミネフジツボ幼生の出現状況および他湾との比較	宮原ら
	187	四国地方における2010年のミドリイガイの生息状況	植田・坂口
	188	ムラサキイガイとムラサキイコガイの微視的分布-IV	秦・松谷
	189	大塩貯水池導水路内におけるカワヒバリガイ対組織の安定同位体比の変動に関して	小林ら
	190	外来種ヨーロッパザラボヤ-二枚貝養殖漁業における新たな脅威-	金森ら
	191	ヒゲナガカワヒケラ綱糸線リソソムの生化学的特徴-リソソム機能の季節変動性-	野村ら
	192	ヒゲナガカワヒケラ(Stenoposyche marmorata)幼虫巣系タンパク質における周期性アミノ酸配列について	大川ら
	193	有肺類リムネアLymnaea稚貝に見られる淡水への適応・進出戦略-卵が先か、親が先か？-	尾城ら
	194	防食皮膜としての生物皮膜	川辺
2011 SJシンポ		「環境変動と付着生物」	
	185	海洋生態系のレジームシフトと生物資源の変動	渡邊
	186	エゾアワビ資源の変動とレジームシフト	高見
	187	地球温暖化による海洋環境の変化と海洋生態系への影響	伊藤
	188	気候変動と造礁サンゴ：地球温暖化と海洋酸性化の複合影響	山口
	189	急激な環境変動の生物への影響-フジツボ類の長期的および短期的応答について	山野
	190	環境変動がもたらす藻場への影響	藤田
	191	熱帯原産のミドリイガイは日本の冬をいかに過ごしているか？	植田
	192	海水温上昇域における定着性生物の分布状況	野村
	193	三陸の潮間帯フジツボ群集に対する津波と地盤沈下の影響	加戸
	194	三陸の岩礁も場における底生生物群集への津波の影響	河村・高見
2012 論文	223	東京湾の3干潟における底生珪藻の分布	植松ら
	224	アコースティックエミッション法を用いた付着性二枚貝の配管付着状態検出法の開発	松尾・長
			Sess. Org., 29(1)
2012 論文	225	The anti-biofouling effect against barnacles of a super-hydrophobic and high-oleophobic surface of treated aluminum	Ohkubo et al
	226	付着生物を考慮した大型浮体海洋構造物の環境影響のシミュレーション	多部田
	227	外来ホヤ類の生物学-最近の話題から	西川
			Sess. Org., 29(2)
2012 集会19	195	海城(水深1m)に垂下したスライドグラスにおける微生物フィルムの形状	深瀬ら
	196	磯で見返る黄色い海綿の正体は？-あるHymeniacidon属海綿の再検討と新名の提唱-	大谷
	197	それから・・・卵が先か、親が先か？-有肺類リムネアLymnaeaの淡水進出戦略-	尾城ら
	198	中国地方西部における2011年のミドリイガイの生息状況	上田・坂口
	199	ココボ-マアカフジツボの繁殖周期と成長-固有種との比較-	山口ら
	200	大船渡湾におけるミネフジツボの成長・食性および環境	宮原ら
	201	北海道の二枚貝養殖漁場に侵入した外来ホヤについて	金森ら
	202	港湾構造物に見られる付着生物群集の全国比較	上村ら
	203	フジツボおよびコイガイ幼生の着生場所選択における光受容と視覚の役割	松村・Qian
	204	リアルタイムPCRを用いたイガイ類幼生の種特異的検出定量方法	野方ら
	205	リアルタイムPCRを用いたフジツボ類幼生の種特異的検出定量方法	遠藤ら
	206	種間配列比較から推定されたフジツボ着生誘起タンパク質(SIPC)の種特異性の分子機構	頼末ら
	207	アカフジツボ接着層のAFMによる解析	紙野・野方
	208	ポリ乳酸によるフジツボ付着成魚	石丸ら
	209	ヒゲナガカワヒケラ(Stenoposyche marmorata)幼虫シルク/セメントタンパク質Smsp-1の生成およびアミノ酸配列解析	大川ら
	210	海産付着生物幼生に対する塩素の影響-アンモニアとの関係-	古田ら
	211	周期的電気分解による漁網への海生生物付着防止	近藤ら
	212	送水配管におけるカワヒバリガイ付着防止対策に関する検討	小林ら
	213	防汚剤のシロギス卵への影響試験	小林ら
2012 SJシンポ40周年		「環境と付着生物との関わりの視点から今後10年先の付着生物研究を展望する」	
	195	船舶の運航を巡る生物の越境移動問題と国際的規制の今後の方向性	華山
	196	海産固着性動物と環境変動に関する最新の知見と予測	中島
	197	港湾の付着生物相の現状から沿岸域の付着生物の生態系サービスを考える	上村
	198	コケムシの分類学・生態学から見た付着生物研究の可能性と課題	広瀬
	199	水産物と共に移動する穿孔性多毛類	大越
	200	食品としての海藻産業の現状と今後の研究課題	佐藤
	201	ハボウキガイから作られていた幼のクロス-生物付着現象に学ぶ先端繊維工学-	大藤
	202	発電所付着生物対策の新たな展開-付着生物幼生検出技術および着生制御技術に関して-	野方
	203	付着生物の着生が選択する付着基質の微細構造と性状	室崎
	204	マガキ群居性の化学的根拠：同種貝殻に含まれるマガキ幼生の付着誘起物質の検討	グレン
2013 論文	228	長崎県諫早湾のマガキ養殖場に出現する付着汚損生物の種組成と量的変化	Glenn et al.
	229	低濃度残留塩素時の海生生物付着事例について	海本・市川
			Sess. Org., 30(1)
2013 論文	230	高知県浦ノ内湾におけるミドリイガイの越冬と水温条件-2010年冬季	植田ら
	231	岩手県産ワカメ地方株の形態的変異	難波ら
			Sess. Org., 30(2)
集会20	214	海産有肺類イソアワモ子は塩分濃度の局所的変化にどう対処するか？	尾城ら
	215	護岸形状と付着生物の遷移	田中・鈴木
	216	北九州市洞海湾における付着生物の分布状況について	寺師ら
	217	東日本大震災とムラサキイガイ・ムラサキイコガイ稚貝の分布	秦・松谷
	218	小口径配管におけるカワヒバリガイ対策へのオゾン・ストレーナの適用性の検討	小林ら
	219	光照射により接着・架橋するイガイ接着タンパク質ミメテックスの構築	西田ら
	220	二枚貝の足糸付着円盤マトリクスタンパク質における淡水-海水系の差異について	野村ら
	221	海産付着生物幼生に対する二酸化塩素の影響	古田・野方
	222	フジツボのcementはアミロイドか？	紙野
	223	フジツボに対する表面微細構造の拒付着効果	阿部ら
	224	動態追跡による微細構造表面でのフジツボキブリス幼生の探索行動解析	室崎ら
	225	運航記録に基づくココボ-マアカフジツボの船体付着による越境移動確率	亀山ら
	226	本州西部におけるココボ-マアカフジツボの分布状況と同種の生息に与える塩分の影響	野方ら
	227	伊勢湾・熊野灘沿岸におけるココボ-マアカフジツボの分布について	濱田ら
	228	ココボ-マアカフジツボ成体の高温耐性	神谷・亀山
	229	東北地方に新たに出現した外来フジツボBalanus perforatus	野方ら
	230	北海道噴火湾における外来種ヨーロッパザラボヤ-生活史と個体群動態-	金森ら
	231	食用フジツボの養殖を可能とする基本技術とその実証	鶴見ら
2014 論文	232	潮流発電タービンブレード模型の生物汚損と防汚塗料の効果	勝山ら
			Sess. Org., 31(1)
2014 論文	233	外来種ココボ-マアカフジツボの国内分布	山口
			Sess. Org., 31(2)
2014 集会21	232	海産有肺類イソアワモ子の上陸作戦-模造海岸での挙動-	尾城ら
	233	ハニカム状微細構造とフジツボキブリス幼生の着生との関係	阿部ら
	234	マガキ養殖におけるフジツボ付着防止について：チグレインソギンチャクの人為的な先行付着による効果	グレンら
	235	貯水池での選択取水によるカワヒバリガイ汚損被害軽減の可能性	中野ら
	236	東日本大震災とムラサキイガイ・ムラサキイコガイ稚貝の分布-2	秦・松谷
	237	岩手県越喜来湾における震災前後の付着生物の加入と群集構造の変化	長野ら
	238	マガキ、イワガキおよびケガキの飼育幼生に対する免疫染色反応の違い	奥西ら
	239	マガキ幼生の迅速検出技術の開発と展開	太田ら
	240	マガキ幼生の付着誘起物質(同種貝殻由来糖タンパク質)に対する各種レクチンの作用	Vasquez et al.
	241	フジツボのバルク接着蛋白質(同種貝殻由来糖タンパク質)に関する検討	紙野

		ヒゲナガカワトビケラ (<i>Stenopsyche marmorata</i>) 幼虫由来付着性シルクネットの可溶性・タンパク	大川ら		
	242	質組成分析			
	243	新規外来? エボシガイ <i>Lepas pacifica</i> の越喜来湾における出現時期と成長	久松ら		
	244	大阪湾潮間帯で記録された海産・汽水産外来種の時空間変動とその要因について	大谷		
2014		「平野先生追悼講演会」		Sess. Org., 31(2)	3/21 東京大学弥生講堂(文京区)
	205	故平野禮次郎先生および故梶原武先生と日本付着生物学会	山口		
	206	管棲多毛類の生態研究で学んだこと	木下		
	207	フジツボ類幼生の飼育研究所感	加戸		
	208	カンザシゴカイ: 着底と変態の研究に至るまで	岡本		
	209	付着珪藻の生態とアワビ餌料としての役割—平野先生にご指導いただいた研究—	河村		
	210	港湾建設における環境配慮事業	川嶋		
	211	大量取水環境影響評価プロジェクト等	原		
2014 miniシンポ		「外洋・深海の付着生物〜フロンティア研究の現状〜」		Sess. Org., 32(1)	10/24 JAMSTEC(横須賀)
	212	外洋設置パイに付着する生物	松本		
	213	深海付着生物研究概説	渡部		
	214	深海性ウミウリの生物学・古生物学	大路		
	215	深海ゴミに付着するクラゲ類	柴田ら		
	216	深海性イガイ類の付着生態と貝殻形成の特徴	大越		
	217	深海熱水噴出域でシロカイヒバリガイ類が成功した理由	村上		
	218	JAMSTECとの共同研究によって得られた深海生物の行動記録映像について	杉上		
2014 国際シンポ		The 2nd International Barnacle symposium "Current Topics on Barnacle Biology"		Sess. Org. 32(1)	7/11 Singapore
	219	Unifying Themes in Barnacle Biology	Dan Rittschof		
	220	Development of the Pheromone Trap using the Recombinant Waterborne Larval	Endo et al.		
	221	Use of Arthropod Wound Healing Mechanisms in Barnacles Amphibalanus (=Balanus) amphitrite	Essock-Burns et al.		
	222	Proteomics of Tetraclita japonica Shell Reveal Barnacle Shell Formation Mechanism	Wong, et al.		
	223	Specific Auto-fluorescence of the Cypris Larvae in the Coastal Barnacles	Yamashita et al.		
	224	Barnacle Settlement on Honeycomb-patterned Micro-structured Surfaces with Different Geometric Parameters	Murosaki et al.		
	225	Cypris Larva and Its Cementation	Okano et al.		
	226	On The Invasive Alien Barnacle Megabalanus coccopoma(Darwin 1854), The Genetic Difference among Remote Populations of Panama, The Atlantic, The West Pacific, And The Ship Hulls, and The Present Geographic Distribution in Japan	Yamaguchi et al.		
	227	A New Alien Barnacle Perforatus perforatus in Japan and Its Growth, Settlement Season and Survival of Larvae for Different Temperatures	Hamaguchi et al.		
	228	Amphibalanus improvisus Facing Climate Change—Multiple Stressors, Life-Stages and Populations	Pansch et al.		
	229	The Fate of Cyprid and Juvenile Barnacles on Paint with 0.1% Ivermectin	Pinori et al.		
	230	Verification of an Applicable Test Procedure for Efficacy of Antifouling Paints Using Cypris Larva of Balanus (=Amphibalanus) amphitrite	Kobayashi et al.		
	231	New Cultivation System of Barnacles as New Fisheries Products	Tsurumi et al.		
2015 論文	234	新規外来フジツボ <i>Perforatus perforatus</i> の日本への侵入確認およびリアルタイムPCR法を用いた検出方法について	野方ら		
2015 論文	235	外来種ナンオウフジツボ <i>Perforatus perforatus</i> の北九州市洞海湾における1992年の発見は東アジア初記録	梶原ら		
2015 集会22	245	海産有肺類イソアワモチの上陸行動と色覚—RGBの識別および選択—	尾城ら	Sess. Org., 32(2)	3/27 東京海洋大学(品川)
	246	大阪湾で発見された <i>Topsentia</i> 属(イソカイメン目:イソカイメン科)カイメンについて	大谷		
	247	クダウミドコ幼生に対する特異的なモノクローナル抗体の開発とその応用	山下ら		
	248	寄生性フジツボ (<i>Sacculina confragosa</i>) キプリス幼生における雌雄比に関する研究	小林ら		
	249	トランスクリプトーム解析によるフジツボ幼生着生関連遺伝子の探索	松村ら		
	250	新規外来フジツボ <i>Perforatus perforatus</i> の現在の生息域と生態からみた今後の分布域	濱口ら		
	251	シロスジフジツボの繁殖について—タテジマフジツボと比較して—	塚本		
	252	北九州市洞海湾における水質の改善と付着動物組成の変化	梶原ら		
	253	震災前後での志津川湾における付着生物幼生の出現動態について	野方ら		
	254	震災後の潮間帯ムラサキイソガイ、ムラサキイガイの動向および付着幼生のSEM観察からみた幼生の付着移動過程の推察	秦・松谷		
	255	ムラサキイガイの生態を利用した付着量抑制法の検討	塩田・山下		
	256	実海水通水実験設備を用いた塩素による付着生物防除効果の評価	古田ら		
	257	アミノ酸由来イソニトリル化合物のフジツボキプリス幼生に対する付着阻害活性	福田ら		
	258	双性イオン型高分子ブラシの海洋生物付着抑制効果	樽垣ら		
	259	ミネフジツボ養殖のための種苗生産の検討	井戸・加戸		
2015 SJシンポ		「動くのを止めた海の生き物たち—海洋附着生物の分類と生態—」		Sess. Org., 33(1)	10/3 東京大学山上会館2F(文京区)
	232	海綿動物の分類、系統、多様性	伊勢		
	233	ヒドロ虫類(刺胞動物)の系統分類—特にベニクラゲ類とカイヤドリヒドロ類を中心	久保田		
	234	イシサンゴ目(刺胞動物門・花虫綱)の系統と分類	深見		
	235	サンゴと海洋酸性化	栗原		
	236	コケムシの系統分類と多様性研究の現状	広瀬		
	237	多毛類カンザシゴカイ科とケヤリムシ科の分類と系統について	西		
	238	生態系エンジニアとしてのカンザシゴカイ類	岡本		
	239	フジツボ類の分類	山口		
	240	遺伝情報を利用したフジツボ幼生出現状況の調査法について	野方		
	241	付着性二枚貝類の系統分類	栗原		
	242	ミドリイガイの近況—黒装束の侵入者その後—	植田		
	243	ホヤ類の系統分類—現状と課題	西川		
	244	海藻類の系統分類—緑藻アオノリの種同定のポイント—	高田		
2016 論文	236	ムラサキイガイ <i>Mytilus galloprovincialis</i> の付着挙動とポリ-L-乳酸の効果	古川・西田	Sess. Org., 33(1)	
	237	熱帯・亜熱帯域における沿岸域生態系の景観形成種の遺伝的分化	中島		
2016 論文	238	Variation in the abundance of periphytic algae in marine biofilms on glass surfaces submerged	Hashimoto et al.	Sess. Org., 33(2)	
	239	DPD法での海水中の残留塩素測定における珪藻 <i>Coscinodiscus wailesii</i> の存在による計測妨害	芳村ら		
2016 集会23	260	繁殖海域へ回遊しているザトウクジラに付着したオニフジツボの胚発生	岡田ら	Sess. Org., 33(2)	
	261	伊豆半島鍋田湾におけるココボーマアカフジツボの繁殖と胚発生	神谷ら		
	262	寄港地を含む近海航路域内に棲息するフジツボ幼生の実態調査	遠藤ら		
	263	伊勢湾における付着生物6種の幼生出現期と水温の関係	濱田ら		
	264	大阪湾で発見されたキタアメリカフジツボ	近江ら		
	265	岩手県越喜来湾の防波堤における岸壁生物群集の東日本大震災後5年間の遷移	加戸ら		
	266	男鹿半島戸賀湾に生息するフクロムシ(Crusta-cea: Cirripedia: Rhizocephala: Kentrogonida: Sacculinidae)の分類上の問題点について	小林ら		
	267	北海道におけるムラサキイガイの殻成長	武田ら		
	268	相模湾奥の江の島周辺におけるミドリイガイの冬季生残率に地点差をもたらす要因について	植田		
	269	クレハPGA(ポリグリコール酸)樹脂の生物付着抑制効果に関する検討	山下ら		
	270	塩素殺菌法を用いた褐藻マツモの人工種苗生産	塚本ら		
	271	褐藻マツモ海中養生に対する付着生物の影響	難波・加戸		
	272	収眼類イソアワモチの肺機能と生息域拡大戦略—付着匍匐と浮遊行動—	尾城ら		
2016 SJシンポ		「動くのを止めた海の生きものたちの展示—特に教育利用や研究の観点から—」		Sess. Org. (34(1))	10/21 名古屋港ポートビル4F(名古屋)
	245	葛西臨海水族園における海藻類の育成と展示	戸村		
	246	名古屋港水族館におけるイシサンゴ類の飼育と展示	星野		
	247	八放サンゴ類を水槽展示でどう観せるか	今原		
	248	仙台商み杜水族館でのマボヤとマガキの展示	萬		
	249	フジツボ類の飼育・展示と調査研究	塚本		
	250	深海性付着生物、動きの少ない深海生物の飼育と展示—その現状と課題—	杉村		
	251	名古屋港の付着生物を用いたポランテアによる解説活動	春日井		
2017 論文	240	過酸化水素の植物プランクトン、ワカメ配偶体、シオタマリミジンコ、タテジマフジツボ幼生に対する影響	小平ら	Sess. Org., 34(1)	
	241	フジツボ類にみられる性表現とその多様性	遊佐		

2017 論文	242	海域で形成した微生物フィルムおよび単離バクテリアフィルムのマガキ幼生に対する付着誘起効果	橋本ら	Sess. Org., 34(2)	
	243	Osaka Bay in Japan as a model for investigating the factors controlling temporal and spatial	Otani & Willan		
2017 集会24	273	褐藻マツモの糸状体を用いた海面養殖	篠塚ら	Sess. Org., 34(2)	4/2 東京海洋大学(品川)
	274	クダウミヒドラ幼生における定着組織特異的発現遺伝子及びタンパク質群に関する研究	鈴木ら		
	275	付着生物イソアワモチ(収眼類)の生息域拡大戦略—卵塊形成・放出経路とオリエント急行の謎	尾城ら		
	276	ムラサキイガイ(Mytilus galloprovincialis)retinoid X receptorの同定及び性状解析	宮城ら		
	277	岩手県大槇湾の水中垂下物上にみられる付着生物の多様性と季節消長	広瀬・河村		
	278	大阪湾潮間帯で発見されたフジツボ—その分布はどう決まる？	大谷		
	279	日本のチシマフジツボ集団に外来遺伝子型の侵入は起きているか？	頼末ら		
	280	大槇湾赤浜の潮下帯岩礁域におけるフジツボ類の重量・サイズ分布の季節変動	神吉ら		
	281	実海域での浸漬試験における試験片表面粗さのフジツボ付着への影響	龍山ら		
	282	表面微細構造の幾何的・弾性的特徴とフジツボの着生との関係	室崎ら		
	283	キブリス幼生固定化カテシラーを用いた付着器官の水中凝着力評価	小林ら		
	284	フジツボ幼生着床阻害活性を有する天然物Euro-tiumide Bの全合成と蛍光プローブへの展開	中山ら		
	285	特定波長光照射による付着生物の新規付着抑制技術の研究開発	齋藤ら		
	286	グルコサミン由来の付着阻害剤の合成と付着阻害活性	梅澤ら		
	287	「フジツボ幼生研究に残された2つの疑問—幼生形態と系統進化・幼生の岸認識能力—」	加戸		
	288	「微生物フィルムの形成過程と幼生に対する変態誘起効果」	北村		
2017 SJシンポ		「着生機構はどこまで解明されたか」～化学シグナルからバイオフィルム化学へ～(伏谷着生機構プロジェクト発足25周年記念)」		Sess. Org., 35(1)	10/21 東京海洋大学(品川)
	252	幼生着生研究の進展	Clare		
	253	マガキ幼生の付着過程について	グレン		
	254	光の波長と幼生の行動及び着生分布	山下		
	255	着生とバイオミネラリゼーション	清水		
	256	フジツボの着生シグナル	松村		
	257	アカフジツボのキブリス幼生の付着と幼生セメント	岡野		
	258	付着阻害物質研究の進展	沖野		
	259	3-Isocyanatotheonellinをリード化合物とした付着阻害活性に関する構造—活性相関の考察と新規付着阻害物質の創製	北野		
	260	有機合成から着生問題へのアプローチ:着生機構解明のためのプローブ化を志向した着生阻害天然物の合成研究	梅沢		
	261	核内受容体を介した有機スズ化合物の生態影響～着生機構への関与の可能性～	中西		
	262	固着により開始されるホヤの変態を司る分子メカニズム	笹倉		
	263	The importance of integrating "Omics" approaches in the study of fouling organisms	Him		
	264	走査フォース顕微鏡を用いたキブリス幼生付着器官の水中凝着力測定	小林		
2018 論文	244	3-イソシアナトオネリンをリード化合物とした付着阻害活性に関する構造—活性相関の考察と新規付着阻害物質の創製	北野	Sess. Org., 35(1)	
2018 論文	245	Cellulose production and the evolution of the sessile lifestyle in ascidians	Sakakura	Sess. Org., 35(2)	
	246	広島県宮島におけるシロスフジツボの繁殖生態	塚本		
	247	着生阻害活性天然有機化合物と誘導体の合成研究	梅沢・松田		
2018 集会25	289	褐藻マツモ糸状体形成に対する水温と光量の影響	難波ら		
	290	ヒョウガライトヒキクラゲ(新種)Acromitus maculosusの初期生活史	三宅ら		
	291	フリルンにおけるVallicula multififormisの初記録	和田ら		
	292	クラゲ洋上処理システムに適用した鋼製クラゲ回収装置の防食・防汚対策について	塩田		
	293	カギノテクラゲGonionemus vertensの付着嗜好性に関する研究	菅野・石井		
	294	青色LED光源へのキブリス幼生の誘引行動を利用した船底防汚の基礎実験	三村ら		
	295	キブリス幼生の付着板面に着生する位置の主効果及び発光細菌の青色光への自発的移動と着生	喜多村ら		
	296	ポリマーブラシ表面における生体キブリス幼生付着器官の凝着力評価	小林ら		
	297	表面化学組成の違いがフジツボの着生に及ぼす影響	小瀬ら		
	298	ポリグリコール酸の海洋付着生物防汚性に関する研究	村野ら		
	299	β -シトクロロール誘導体イソシアナート化合物の合成とフジツボキブリス幼生に対する付着阻害活性の評価	中嶋ら		
	300	α , α -二置換アミノ酸誘導体イソニトリルの合成とフジツボキブリス幼生に対する付着阻害活性の評価	井上ら		
	301	海産有肺類イソアワモチ(収眼類)のRGB識別能力と上陸行動	尾城ら		
	302	駿河湾沿岸域に漂着したエソシガイ(節足動物門:甲殻類)の形態分類と主要形質の変異に関する考察	渡邊・塚越		
	303	道東における在来及び外来フジツボに対する捕食者の非消費型効果	頼末ら		
	304	大槇湾の潮下帯岩礁域における固着動物の群集動態	神吉ら		
	305	大槇湾における移入種ナンオウフジツボの付着密度・付着潮位の季節変化	加戸		
	306	アカフジツボの幼稚体における殻形成過程の解析	黄ら		
	307	沖繩トラフ深海熱水噴出域に生息するゴエモンコシオリエビに付着する生物群集	唐沢ら		
	308	「付着多毛類が生態系や産業に与える影響」	大瀬		
2018 SJシンポ		「刺胞動物の付着:その不思議でユニークな生態や機能」		Sess. Org., 36(1)	10/12 JAMSTEC 三好記念講堂(金沢区)
	265	ヒドロ虫類の付着基特異性	並河		
	266	クダウミヒドラ幼生の着生行動と接着関連物質	山下		
	267	深海性クラゲの生活史	Lindsay		
	268	淡水棲マズクラゲの生活史—3種の芽体形成を介した生存戦略—	小林		
	269	付着世代でこそみられるポリプの生態	三宅		
	270	鉢クラゲ類ポリプの生存戦略:成長及び増殖に対する環境要因の影響	池田		
	271	ミズクラゲポリプの分布生態	石井		
	272	ミズクラゲのストロビレーションに及ぼす温度の影響	大田		
	273	十文字クラゲ類の自然史—顧みられることの少ない、その生態を中心に—	平野		
	274	立方クラゲ類の完全?不完全?な生活史	宇藤		
	275	イソギンチャク類の体のつくり・生態・分類	柳		
	276	ミドリイシサンゴの着生変態機構と着生後の初期成長	服田		
2019 論文	248	The Earliest Japanese records of the invasive European Ascidian <i>Ascidia aspersa</i> (Müller, 1776) (Urochordata: Ascidiidae) from Mutsu and Ago Bays, with a brief discussion of its invasion processes	Nishikawa et al.	Sess. Org., 36(1)	
	249	携帯型岸壁生物水中ビデオ撮影装置の考案	加戸		
2019 集会26	309	海洋環境下におけるヒドロキシ基修飾表面及びP VAフィルムの付着生物に対する防汚性	室崎ら	Sess. Org., 36(2)	
	310	自己組織化単分子膜表面のヒドロキシ基比率とフジツボの着生との関係	百々瀬ら		
	311	走査プローブ顕微鏡を用いたキブリス幼生の一時的付着行動における凝着力測定	山口ら		
	312	The unexpected characters of the shell of the barnacle <i>Tetraclita formosana</i>	Wong et al.		
	313	ミネフジツボ養殖のための種苗生産の検討(III)	鶴見		
	314	淡水産腹足類Lymnaeaの卵完熟・発生過程から推定される魚卵完熟に伴う卵黄球ビッグ・パンの開始要因について	尾城・黒川		
	315	フテナイトを構造基盤とする付着阻害活性分子の合成と評価	高村ら		
	316	船内からの超音波照射による船体外表面への生物付着の検出	藤本ら		
	317	写真測量を用いた潮下帯岩礁上固着動物の生息適地判定法	神吉ら		
	318	岩手県越喜来湾の人工構造物上にみられる付着生物群集を利用する表在性動物の種組成と生活史	広瀬ら		
	319	深海熱水噴出域に棲息するアカツキミョウガガイ類の系統地理と幼生分散	渡部ら		
	320	マイクロプラスチックはサンゴと褐虫藻の共生関係を阻害する	大久保		
2019 SJシンポ		「三陸における付着生物研究」		Sess. Org., 37(1)	10/18 東京大学 国際沿岸研究センター(大槇)
	277	岩手県越喜来湾の護岸壁潮間帯に出現する主要フジツボ類の28年間の経月・経年変化からみ	加戸		
	278	岩礁潮間帯の固着生物群集への東北地方太平洋沖地震の影響	野田		
	279	北日本太平洋岸における外来フジツボの加入・定着機構に関する実験的検証	頼末		
	280	岩手県南部に位置する越喜来地区防波堤前浜のマコンブ群落	難波		
	281	大槇湾におけるヒトツボ2種による付着動物の捕食とその季節変動について	早川		
	282	岩手県南部における東日本大震災前後のクラゲ類の出現変化	三宅		
	283	潮下帯岩礁域の写真測量による付着生物の生息適地モデリング	神吉		
	284	三陸沿岸の水中垂下物上の固着性動物群集をとりまく海洋生物学	広瀬		

2020 論文	250	架橋PVAコーティングのフジツボ附着防止効果の検証	百々瀬ら	Sess. Org., 37(1)	
2020 論文	251	<i>Styela plicata</i> (Lesueur, 1823) (Urochordata: Ascidiacea) from Ofunato Bay, Iwate Prefecture;	Nishikawa et al.	Sess. Org., 37(2)	
2020 集会27	321	淡水産有肺類リムネア <i>Lymnaea stagnalis</i> に卵完熟誘起物質 (MIS) は存在するか?	尾城ら	Sess. Org., 37(1)	
	322	異なる水温・流速・餌濃度環境下におけるフサコケムシの摂餌量	広瀬ら		
	323	キブリス幼生の一時的着力の飼育環境依存性	山口ら		
	324	深海熱水噴出域におけるミウワガイ類の系統地理	渡部・Chan		
	325	岩手県大槌湾湾口部に構成される固着性動物群集	谷口・広瀬		
	326	岩手県越喜来湾の鉛直護岸壁における震災後の潮間帯生物相の経年変化	加戸ら		
	327	女川湾における垂下式養殖物への付着性生物付着量の比較	倉石ら		
	328	自然岩礁上と人工構造物上におけるマボヤ付着状況の違い	神吉ら		
	329	潮間帯において生物起源の構造物が生物群集に与える影響～マガキ・イガイ・ヤッコカンザシ	正木ら		
	330	三陸沿岸域における梅毒類の分布と底質の関係	中本ら		
	331	Mussel Watch! に関する最新の手法と成果～貝殻を利用した沿岸環境モニタリングへの挑戦～	杉原ら		
		イムノクロマト法を用いた東播磨沿岸におけるムラサキイガイ及びミドリイガイ付着期幼生の出現動態に関する解析	山下ら		
	332				
	333	基板材料用新規フジツボ着生実験評価法の検討	三上ら		
	334	網羅的代謝物解析で迫るホヤのケミカルコミュニケーション	宮古・酒井		
2020 SJシンポ		「海洋利用と生物付着の制御」		Sess. Org., 38(1)	10/30 オンライン
	285	汚損生物としての付着生物に関する最新情報と問題提起	野方		
	286	洋上風力発電にともなう沿岸海洋の生態系影響: 付着生物研究の視点から	中田		
	287	船体汚損、水中船体清掃	澤		
	288	平戸瀬戸における試験板を用いた付着生物調査について	経塚		
	289	大規模沖合養殖の技術開発と生物付着への対応	鶴岡		
	290	海の外来生物—その侵入過程と今後の対応について—	大谷		
	291	海洋設置設備・構造物の汚損実態と防汚対策	眞道		
	292	新規防汚化合物の開発	北野		
	293	船底防汚塗料開発における最近の動向	島田		
	294	付着制御と新規防汚素材の開発	山下		
	295	海洋生物における船底防汚物質の毒性影響	大地		
	296	船体付着による生物移動の制御に関する国際動向	北村		
	297	船底防汚塗料の防汚性能評価試験法	小島		
	298	～海洋付着生物への新たな認識に向けて～	南		
2021 論文	252	洞海湾における水質改善前後でのコウロエンカワヒバリガイ <i>Xenostrobus securis</i> の動態	梶原	Sess. Org., 38(1)	
		Ingestion and growth rates of <i>Aurelia coerulea</i> polyps fed naturally occurring copepods as food	Ishii & Takahashi	Sess. Org., 38(2)	
2021 論文	253				
2021 集会28	335	フジツボキブリス幼生着生時の表面官能基に対する選択性	渡邊ら	Sess. Org., 38(2)	3/23 オンライン
	336	着生防止基板を同時評価可能な新規フジツボ着生実験系の検討	三上ら		
	337	農業用薬剤等を利用したカワヒバリガイ防除に関する検討	小林ら		
	338	漁礁構造物上における付着生物のハビタットマッピング	神吉ら		
	339	Mussel Watch! に関する最新の手法と成果～貝殻を利用した沿岸環境モニタリングへの挑戦～	杉原ら		
	340	淡水産有肺類リムネアから類推される“排卵誘起酵素”の存在と検出法	尾城ら		
		深海熱水噴出域に生息するミウワガイ類 <i>Vulca-nolepas</i> 属は曼脚上でバクテリアを培養して捕食する?	渡部ら		
	341				
	342	岩手県越喜来湾および大槌湾における付着板を用いたコケムシの出現動態に関する研究	須山・広瀬		
	343	餌料環境がコケムシの卵黄栄養型幼生の行動に及ぼす影響	大木・広瀬		
	344	ハイバースペクトルカメラを用いたホヤ卵透明性の種間比較	紫藤ら		
	345	ホヤ付着器の機械刺激は2段階 Ca ²⁺ 濃度上昇を介し変態を誘導する	堀田		
	346	ヒトの目にとまらない生き物たち	馬渡		
2021 miniシンポ		「フジツボを学び、食す」		Sess. Org., 39(1)	10/15 オンライン
	299	フジツボ類とは	加戸		
	300	絶品美味・ミネフジツボ養殖技術開発の今	鶴見		
	301	ミネフジツボの脂質成分について	山田		
		NHK「サイエンスZEROフジツボ」制作 秘話～脅威の能力と超絶美味を伝えるフジツボだけの30分番組～	菅野		
	302				
	303	ヒトとフジツボ—その悠久の歴史	富士		
		西ヨーロッパ沿岸に生息するカメノテ類 <i>Pollicipes pollicipes</i> の利用と資源管理—国際的な取り組みについて	Macho		
	304				

総論文数 253
 口頭発表数 346
 シンポ講演数 304

研究集会開催数(中野、東電EE、大槌、品川、弥生、小湊、
 シンポジウム(一般シンポ:25、国際シンポ:2、追悼シンポ:2) 28
 ワークショップ(ホヤ(真鶴)、フジツボ(白浜)、コケムシ(下田)、イソギンチャク(館山)) 29
 4